

## 外部専門家・自立活動連携相談について

自立活動係では、職員の専門性や指導力向上のために、外部専門家の先生をお呼びしております。今年度も4名の先生が来校していただき、連携・相談を行いました。

○理学療法士(PT)

○言語聴覚士(ST)

○作業療法士(OT)

○作業療法士(心理士)

※作業療法士の先生には、心理面においてもカバーしていただける研修を行っております。

外部専門家の先生方とは、自立活動の指導を充実させるために、困難さの背景要因を探る視点で連携・相談を行っており、直接的な指導の改善を図るための話し合いなども行っております。

今回は、理学療法士(PT)との相談について報告させていただきます。

### 【理学療法士(PT)】

理学療法士(PT)は、動作の専門家です。歩く、立ち上がる、筋力強化、関節可動域の拡大などの日常生活を行う上で基本となる動作を視点に、ぎこちない動き等の原因を探り、解決策を一緒に考えていただきました。ご助言いただいた事例についていくつか紹介します。

### ○生徒が歩行する際の補助具について

身体の動きを目標の一つとして取り組む生徒が歩行の練習を行う際、本人や支援する職員が安全に歩行のサポートを行うための補助具としてどのようなものがよいか、ご相談しました。生徒の実態や普段の支援方法をお伝えすると、リュックのような形の補助具が合っているのではないか、というご助言をいただきました。そのことを保護者に伝えたところ、生徒が通院している医療機関が右記のような補助具を作成してくださり、学校で活用することになりました。生徒は歩ける距離や時間が長くなり、支援を行う職員も大きな力を使うことなく支援を行えるようになりました。



### ○ボールを使ったマッサージ

手指の関節が曲がったまま硬くなっている生徒の実態を見ていただいたところ、手指の腱が本来あるべき位置にないというお話をありました。本来の位置に戻すため、ボールのようなものを握った状態で固定し、指が曲がらないようにストレッチを行うよいという助言をいただき、下記のようなストレッチを適宜行うようにしました。

